

An aerial photograph of a wide, winding river with a milky, light-colored water, meandering through a dense, dark green tropical rainforest. The river's path is highly irregular, forming large loops and oxbow-like shapes. The sky above is a deep blue with scattered white clouds. The overall scene is captured from a high angle, looking down on the landscape.

第3章

南アメリカの熱帯雨林

アマゾン川上流（ペルー）。アンデス山脈の斜面を下った乳白色の川は、アマゾンの大地を蛇行しながら流れて行く

世界最大の熱帯の森が広がるアマゾン

赤道の南北にまたがるアマゾン川流域は、南アメリカ大陸のおよそ40%を占める。ブラジル、ボリビア、ペルー、エクアドル、コロンビア、ベネズエラ、スリナム、ガイアナの8カ国とフランス領ギアナに広がり、その流域面積は約705万km²、日本国土のおよそ19倍もある。

この広大な大地に熱帯雨林が広がっているわけだが、中でもブラジルにおける森林面積は約340万km²に及ぶ。

アマゾン川流域は巨大な盆地のようになっている。北にはギアナ高地、南にはマツト・グロッソ高原とブラジル高原が広がり、西には壁のようにそびえたつアンデス山脈が南北に走る。

この巨大な盆地を、全長およそ6,500kmのアマゾン川が流れている。大西洋に注ぎ込むアマゾン川の最源流は、太平洋から近い標高5,000mを超えるペルー・アンデス山中の小さな流れから始まる。

流れは川となり、谷を下り、大西洋にたどり着く頃、河口の川幅は320kmにもなる。アマゾン川から流れ出る水量は、世界の河川総水量の20%に達するといわれている。

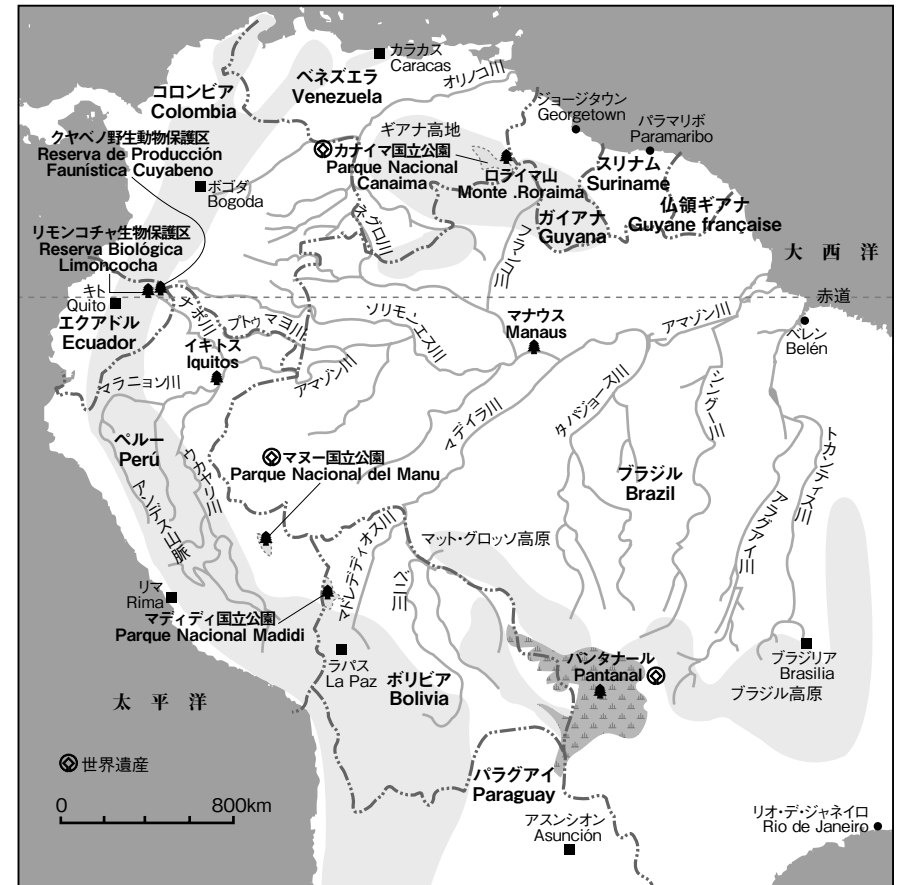
この豊かな水は、大西洋から吹いてくる北東の貿易風によってもたらされる。大西洋の水蒸気を含んだ貿易風は、アマゾン流域一帯に雨を降らす。森に降った雨の40%ほどが、地表を流れてそのまま大西洋に戻る。残り60%が蒸発し大気になって、さらに内陸に運ばれ雨となる。

これらを繰り返しながら、西部流域に雨を降らせた雲は、最後にアンデス山脈にぶつかり、アマゾン川源流域に大量の雨を降らす。

アマゾン川には1,100本あまりの支流があり、その中には全長1,600kmを超える川が17本ある。これらは、ヨーロッパの大河ライン川(1,320km)より長い。さらに小さい支流が、複雑な網の目のように走っている。

アマゾンに降る多量の雨と、絶えることなく蓄えられた水が植物をはぐくみ、世界最大の熱帯雨林を支えている。

さらにアマゾンの南には、これも世界最大の湿地帯として知られるパンタナールがある。



アマゾン川源流域の熱帯雨林 (マディディ国立公園/ボリビア)



アンデス山脈に押し寄せるアマゾンからの雲

世界最大の湿地帯の森

パンタナール

(マット・グロッソ・ド・スル州 - マット・グロッソ州 / ブラジル)

Pantanal / Mato Grosso do Sul - Mato Grosso / Brazil

パンタナールはポルトガル語で「大湿原」を意味し、その湿地面積は日本の本州（約 23 万 km²）とほぼ同じ広さだ。そのうちの一部分が 2000 年、「パンタナール自然保護地域」として、世界遺産に登録された。

雨季には氾濫した河川が、まるで巨大な湖のような景観をつくる。そこには数多くの動植物が生息し、アマゾンの熱帯雨林とは違った湿原の森が広がっている。

パンタナールの川を走る。前方の川の縁にはカマラと呼ばれる大木が並び、右手には南米原産の水草、ホテイアオイが茂る